様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年５月２５日現在

機関番号：１７５０１
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2009～2010
課題番号：21700618
研究課題名（和文）　学校と総合型地域スポーツクラブの関係性に対する教員意識の研究
研究課題名（英文）　Research of teachers consideration to relation between school and comprehensive community sport clubs.

研究代表者
谷口　勇一（TANIGUCHI YUICHI）
大分大学・教育福祉科学部・准教授
研究者番号:　50279296

研究成果の概要（和文）：本研究では、九州内の中学校ならびに高等学校の部活動顧問教師を対象に質問紙調査とインタビューを実施し、総合型地域スポーツクラブに対する各種意識の把握を試みた。得られた知見は以下のとおりである。1）部活動顧問教師の総合型地域スポーツクラブに対する認知度は 31.0%に留まっていた、2）部活動と総合型地域スポーツクラブの連携協力関係については、80.4%が肯定的であることがわかった、3）総合型地域スポーツクラブとの連携協力関係に肯定する者の意識は「自分自身の負担軽減に対する期待感」が強いことがわかった。逆に、連携協力関係に否定的な者は「部活動の教育的意味が薄れてしまう」との意識が強いことがわかった。

研究成果の概要（英文）: The author conducted a questionnaire survey and interview of extracurricular sport activity teachers' awareness of comprehensive community sport clubs targeting junior and senior high schools in Kyushu.1) The extracurricular sport activity teachers' recognition rate of comprehensive community sport clubs is 31.0 per cent. 2) However, 80.4 per cent of the teachers are positive as to coordinate relationship between extracurricular sport activities and comprehensive community sport clubs. 3) The teachers who are positive in the above-mentioned coordinate relationship expect to have their burdens lessened. On the contrary, the teachers who are negative in coordinate relationship fear that educational meanings of extracurricular sport activities may be lessened.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	1,700,000	510,000	2,210,000
２０１０年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
年度			
総　計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：　総合領域
科研費の分科・細目：　健康・スポーツ科学・スポーツ科学
キーワード：学校、総合型地域スポーツクラブ、顧問教師、「揺らぎ」、スポーツ社会学

１．研究開始当初の背景

わが国における青少年のスポーツ活動の多くは、学校運動部活動（以下、部活動）を中心として展開されてきた。しかしながら、近年の少子化傾向は、部員数の減少と廃部の増大、顧問教師の高齢化といった各種問題点を引き起こすこととなり、複数校合同チームの編成や外部指導者の積極的活用といった対応策が講じられてきた。また、2010 年度より、一部が先行実施されている新学習指導

要領（中学校編ならびに高等学校編の「総則」）において部活動は、実質的な「教育課程内」活動としての位置付けがなされ、さらに学校外（地域）との連携関係構築に向けた取り組みが求められてきた。すなわち、部活動を取りまく今日的状況は、学校教育活動としての意味を尊重しつつも、学校外（地域）との積極的な連携関係を視野に入れた運営形態の模索および再構築の必要性に迫られているのである。

学校と学校外（地域）間の連携または融合の必要性を唱えた部活動運営の指針については、上述した諸研究より以前から数多くなされてきた。しかしながら、多くの研究者ならびに学校関係者が、部活動運営形態をめぐる学校と学校外（地域）の関係性構築について議論してきたにも関わらず、部活動運営に関する抜本的な変革および新たな制度整備がなされるには至っていない。以上の部活動を取りまく状況に鑑みたとき、今日の部活動研究―特に学校と学校外（地域）の連携関係に焦点化した―に求められる視座は、以下に置かれるべきなのではなかろうか。すなわち、「何故に部活動と地域スポーツ活動は積極的な連携関係を構築できないのか」という、いわば部活動に潜む規範性―「不変性」―の解明作業に他ならない。

以上も背景を踏まえ、本研究は実施された。

２．研究の目的

そこで本研究では、中学校ならびに高等学校の部活動顧問教師を対象に実施した質問紙調査ならびにインタビュー調査を元に以下の点について検討を目的とした。

すなわち、(1)顧問教師の総合型地域スポーツクラブ（以下、総合型クラブ）に対する認知度の把捉理解、(2)部活動と総合型クラブの連携関係構築に向けた意識の把捉理解、(3)顧問教師の抱く総合型クラブに対する印象内容に関する把捉理解、である。

以上の作業を踏まえ、本研究においては、学校外（地域）との関係性構築が期待されることとなった部活動顧問教師の「揺らぎ」に着目し、部活動を取りまく規範性―「不変性」―の構造について検討した。

３．研究の方法

(1) 質問紙調査

九州各県の全中学校（1566 校）ならびに高等学校（657 校）の部活動顧問教師を調査対象として郵送法による質問紙調査を実施した。質問紙は、各校 10 部を、まず各学校長宛に送付した後、該当者への配布と回収および返信を願う方法を用いた。

調査協力の得られた学校数は、中学校 611 校（部数 3773 部、回収率 39.0%）、高等学校 252 校（部数 2016 部、回収率 38.4%）であり、中学校と高等学校を合わせた回収率は 38.8%であった。調査時期は、2010 年 2 月 15 日から 3 月 1 日の期間である。

質問紙は主に以下の内容で構成された。「基本的属性項目」（4 項目）、「日頃、運動部指導で感じている事柄に関する内容」（9 項目）、「学校と地域との関係性に関する内容」（9 項目）、「今後の学校運動部活動と総合型クラブの関係性についての自由記述欄」、「何らかの形態で学校運動部活動と総合型クラブが連携協力し、活動しているケースに関する情報提供欄」である。

(2)インタビュー調査

インタビュー調査を実施した。調査対象者は、大分県大分市立大東中学校教諭（保健体育科）である森慎一郎氏であり、調査時期は、2010 年 11 月 6 日、12 月 13 日、2011 年 1 月 9 日の 3 日間、1 回あたりの調査時間は、60～80 分を要した。インタビュー調査では、ナラティブ・インタビュー法を用いた。すなわち、調査対象者には、部活動の総合型クラブ化に向けた各種動向の中で生じてきた“出来事”を自由に語ってもらい、詳細に述べられなかった語りの断片や曖昧なまま残っている部分を取り上げ、これに対する別の質問を向ける作業を繰り返した。

会話データは詳細に IC レコーダーで録音し、後にテープおこしを施した。分析作業では、質的データの分析上のテクニックとして、グラウンデッド・セオリー・アプローチ法を援用し、データの概念化・カテゴリー化を試みた。

４．研究成果

(1)顧問教師の総合型クラブに対する認知度

顧問教師の総合型クラブに対する認知度を訊ねたところ、全体では「知っている」31.0%、「名前を聞いた程度」31.4%、「知らない」37.6%となった（表 1）。

表 1.総合型クラブに対する認知度（%）

校種		知っている	名前を聞いた程度	知らない
中学校	n=3767	30.3	31.5	38.2
高等学校	n=2014	32.5	31.1	36.4
合計	n=5781	31.0	31.4	37.6
				n.s.

2006 年に実施された九州内の既設総合型クラブ範域内中学校の部活動顧問教師を対象とした質問紙調査結果をみると、総合型クラブのことを「知らない」と回答した顧問教師は 60.8%であった（中西ほか、2008）。約 4 ヵ年の経過に伴い、部活動顧問教師の総合型クラブに対する認知度は高まりをみせていることがわかる。

(2)部活動と総合型クラブの連携協力関係構

築に向けた顧問教師の意識

顧問教師の部活動と総合型クラブの連携関係構築に対する意識としては、全体では「賛成意向」(「大変賛成」+「まあ賛成」)が 80.4%となった(表 2、3)。しかしながら、学校種別にみると、連携関係に対する賛成意向は、高等学校の方が高いことがわかった(表 2)。

表 2.総合型クラブとの連携意向(校種別:%)

校 種		部活動と総合型クラブの連携意向			
		大変賛成である	まあ賛成である	やや反対である	反対である
中学校	n=3612	17.6	60.5	16.2	5.7
高等学校	n=1956	22.9	61.9	11.7	3.5
合計	n=5568	19.4	61.0	14.6	5.0

χ^2=49.2, d.f.=3, p<.001

表 3.総合型クラブとの連携意向(認知度別:%)

総合型クラブに対する認知度		部活動と総合型クラブの連携意向			
		大変賛成である	まあ賛成である	やや反対である	反対である
知っている	n=1769	30.2	54.5	11.2	4.1
名前を聞いた程度	n=1769	14.1	66.1	15.9	3.9
知らない	n=2031	14.8	62.3	16.3	6.6
合計	n=5565	19.4	61.0	14.6	5.0

$\chi2$=212.2, d.f.=6, p<.001

また、総合型クラブに対する認知度との関係から分析を試みたところ、総合型クラブに対する認知度が高い顧問教師ほど、部活動と総合型クラブの連携関係構築には賛成意向が強いことがわかった(表 3)。

ここでは、表 3 の総合型クラブに対する認知度に関して、「知らない」と回答している群の数値に注目してみたい。質問紙中には総合型クラブの認知度を訊ねた設問の後に、「総合型クラブの概要」を記した説明文を掲載している。総合型クラブに対する認識のない顧問教師においては、当該の説明文を読んだ後に、部活動と総合型クラブの連携関係構築に対する回答が行われたことになる。

2031 名に及ぶ総合型クラブに対する認知度がなかった顧問教師の抱く、部活動と総合型クラブの連携関係構築に関する回答内容の詳細な検討作業は、旧来からの部活動を取りまく各種問題点の把捉理解が可能になると思われる。すなわち、総合型クラブに対する認知度がなかった顧問教師にとっては、学校外(地域)における新たなスポーツ動向(総合型クラブ育成)に対する認識が為されることに伴い、日常的に抱かれてきた部活動への関与をめぐる各種の葛藤やジレンマをはじめとした、いわば本質的な「部活動観」の発露がみられることになるのではなかろうか。

(3)総合型クラブに対する認知度がなく、連携関係に賛成している顧問教師の意識(インタビュー調査も踏まえて)

自由記述回答(該当回答数 77)に関する分析を別に実施したインタビュー調査結果も踏まえて実施した。分析にあたっては、グラウンデッド・セオリー・アプローチによるコーディング法(木下、2003)を援用し、以下の 3 つの概念を抽出するに至った。すなわち、総合型クラブに対する認知度がなく、連携関係に賛成している顧問教師の意識は、【全面的な部活動の総合型クラブ化への期待感】【負担軽減への期待感】【子どものスポーツ環境充実への期待感】の 3 つの概念により構成されていた(表 4)。

表 4. 部活動と総合型クラブの連携関係に賛成する教師の意識(概念)構造

概念名	定義	ヴァリエーション(コード)
全面的な部活動の総合型クラブ化への期待感	部活動制度自体に対する教師の抵抗感であり、生徒のスポーツ活動は学校外(地域)で行われるべきとの意識	職務上、部活動は勤務時間外との意識
		教員の重要職務は教科指導であるとの意識
		部活動の学校内存在に対する抵抗感
負担軽減への期待感	部活動指導に対する精神的・時間的な負担の軽減を期待する意識	部活動における指導上の不安感
		教科指導準備のための時間不足
		土日・祝祭日指導に対する負担感
子どものスポーツ環境充実への期待感	学校外(地域)のスポーツ資源活用に伴う子どものスポーツ活動の充実に対する期待感	外部指導者の指導活動に対する高評価
		学校外(民間)スポーツ活動に対する高評価

【全面的な部活動の総合型クラブ化への期待感】は、顧問教師たちの「職務上、部活動は勤務時間外との意識」「教員の重要職務は教科指導であるとの意識」「部活動の学校内存在に対する抵抗感」という 3 つのコードから生成された。これらのコードは、部活動制度自体に対する顧問教師の抵抗感であり、生徒のスポーツ活動は学校外(地域)で行われるべきとの意識と把捉し、当該概念名を付した。

【負担軽減への期待感】については、「部活動における指導上の不安感」「教科指導準備のための時間不足」「土日・祝祭日指導に対する負担感」の 3 コードから生成された。これらのコードは、部活動指導に対する精神的・時間的な負担の軽減を期待する意識であることから、当該概念名を付した。

【子どものスポーツ環境充実への期待感】については、「外部指導者の指導活動に対する高い評価」と「学校外(民間)スポーツ活動に対する高い評価」の 2 コードから生成され、学校外(地域)のスポーツ資源活用に伴う子どものスポーツ活動充実に対する期待感の表れと把捉し、名付けた。

(4)総合型クラブに対する認知度がなく、連携関係に反対している顧問教師の意識(インタビュー調査も踏まえて)

上述した表 4 と同様の手続きで分析を施したところ(該当回答数 52)、抽出されることとなった概念は、【部活動の教育的意味の尊重】【更なる多忙状況を想起した危機感】【全面的な部活動の総合型クラブ化への期待感】であった(表 5)。【部活動の教育的意味の尊重】については、「教育活動の一環としての部活動に対する意識」「学校経営上、部活動がもたらす各種効果に対する期待」(部活動

の活性化に伴う生徒指導の円滑化、受験生の獲得等)、「総合型クラブの理念（地域住民による楽しむスポーツ活動の場としてのイメージ)への疑念」の 3 コードから生成された。これらのコードは、部活動はあくまでも学校教育活動であり、総合型クラブとの連携に伴う、部活動の教育的意味あいの弱まりに対する懸念であると把捉し、当該概念名を付した。

表 5. 部活動と総合型クラブの連携関係に反対する教師の意識（概念）構造

概念名	定義	ヴァリエーション(コード)
部活動の教育的意味の尊重	部活動はあくまでも学校教育活動であり、総合型クラブとの連携は、教育的意味あいを弱めてしまうとの意識	教育活動の一環としての部活動に対する意識
		学校経営上、部活動がもたらす各種効果に対する期待
		総合型クラブの理念（地域住民による楽しむスポーツ活動）への疑念
更なる多忙状況を想起した危機感	総合型クラブとの連携関係の出現に伴い生じる新たな多忙状況に対する（危機）意識	教師の総合型クラブ運営関与期待への警戒感
		地域住民との人間関係構築への煩わしさ
全面的な部活動の総合型クラブ化への期待感	部活動制度自体に対する教師の抵抗感であり、生徒のスポーツ活動は学校外（地域）で行われるべきとの意識	職務上、部活動は勤務時間外との意識
		教員の重要職務は教科指導であるとの意識
		部活動の学校内存在に対する抵抗感

【更なる多忙状況を想起した危機感】は、「教師の総合型クラブ運営関与期待への警戒感」「地域住民との人間関係構築への煩わしさ」の 2 コードから生成された。これらのコードは、総合型クラブとの連携関係の出現に伴い生じる可能性がある新たな多忙状況に対する（危機）意識と把捉し、当該概念名を付した。

【全面的な部活動の総合型クラブ化への期待感】は、上述した表 4 においても抽出された概念である。なお、概念生成に至ったコードもほぼ同一の内容となった。すなわち、総合型クラブに対する認知度がない顧問教師においては、部活動と総合型クラブの連携関係の賛否に関わらず、部活動制度への抵抗感が存在している可能性をみることになる。表 4 ならびに表 5 において抽出されるに至った当該概念は、顧問教師をめぐる「揺らぎ」の核心的要素を包含しているのではないか。

(5)顧問教師の抱く総合型クラブに対する印象内容

顧問教師の抱く総合型クラブに対する印象内容を、部活動と総合型クラブの連携関係構築意向の賛否別に比較検討した（表 6)。なお、部活動と総合型クラブの連携関係構築意向に関しては、「大変賛成である」、「まあ賛成である」を選択した者を「連携賛成（群)」、「やや反対である」、「反対である」を選択した者を「連携反対（群)」と加工し、分析を試みる。

本来、4 群であった回答カテゴリーを 2 群に加工した意図は、特に部活動と総合型クラブの連携関係構築に対して反対意向を有する顧問教師への焦点化に起因する。すなわち、最も強い「反対」の意向である、「反対である」と回答した顧問教師は全体の 5.0%に過ぎず、当該顧問教師の意識的深層に迫るには心もとない。よって、「やや反対である」（14.6%）を含めた「連携への反対意向者」（連携反対群）の再カテゴリー化を行い、なおかつ、そのことに対応させる目的から「連携への賛成意向者」(連携賛成群）を設定し、以下の分析を施すこととした。

顧問教師の大部分が強い印象として抱いている内容は、「総合型クラブはまだ地域のスポーツ拠点になっていない」（連携賛成群の「そう思う」76.4%、連携反対群の「そう思う」80.2%）であった。

表 6. 顧問教師の抱く総合型クラブに対する印象（% 連携に対する賛否別比較）

項目	連携意向	n数	そう思わない	そう思う	有意差
総合型クラブ関係者には部活動の教育的意味は理解できない	連携賛成	3548	68.1	31.9	p<.001
	連携反対	878	27.6	72.4	
総合型クラブ関係者には部活動の問題点の真意はわからない	連携賛成	3536	57.6	42.4	p<.001
	連携反対	876	25.7	74.3	
生徒連は総合型クラブと交流しても喜ばない	連携賛成	3524	88.8	11.2	p<.001
	連携反対	866	69.9	30.1	
総合型クラブは住民が単にスポーツを楽しむための活動である	連携賛成	3522	76.9	23.1	p<.001
	連携反対	857	49.3	50.7	
総合型クラブはまだ地域のスポーツ拠点になっていない	連携賛成	3527	23.6	76.4	n.s.
	連携反対	863	19.8	80.2	
総合型クラブの考え方は日本にはなじまない	連携賛成	3502	72.2	27.8	p<.001
	連携反対	849	45.2	54.8	
総合型クラブは行政からバックアップを受けており長続きしない	連携賛成	3458	73.4	26.6	p<.001
	連携反対	840	56.0	44.0	
総合型クラブ関係者からの指導では生徒連の競技力向上はのぞめない	連携賛成	3507	86.2	13.8	p<.001
	連携反対	855	76.1	23.9	
総合型クラブはスポーツクラブというより住民交流の場である	連携賛成	3485	51.8	48.2	p<.001
	連携反対	844	38.9	61.1	
総合型クラブ関係者自体が学校部活動のことをあまり考えていないはず	連携賛成	3467	58.8	41.2	p<.001
	連携反対	853	31.6	68.4	

※連携賛成は「大変賛成」と「まあ賛成」の合計、連携反対は「やや反対」と「反対」の合計。
※各質問項目に対する回答カテゴリーは「4そう思う」から「1そう思わない」の4件法。表中では「4」と「3」で「そう思う」と「2」と「1」で「そう思う」と処理。

一方で、連携関係構築に対して反対意向を持つ顧問教師の総合型クラブに対する印象として上位にあがる項目は、「総合型クラブ関係者には部活動の問題点の真意はわからない」（そう思う 74.3%)、「総合型クラブ関係者には部活動の教育的意味は理解できない」（そう思う 72.4%)、「総合型クラブ関係者自体が学校部活動のことをあまり考えていないはず」（そう思う 68.4%)、「総合型クラブはスポーツクラブというより住民交流の場である」（そう思う 61.1%）などであった。

これらの項目からは、連携関係構築に前向きな意向を持たない顧問教師の「総合型クラブ活動に対する不信感」を看取するとともに、当該意識を有する顧問教師の存在こそが、部活動と地域スポーツ活動の積極的な関係性構築を阻害してきた一要因であると推察できよう。

(6)得られた研究成果の位置づけ（意味）

表 6 において、顧問教師の抱く総合型クラブに対する印象の内容を把捉した。部活動と総合型クラブの連携関係に対する賛否に関わらず、最も高い印象内容（項目）は、「総合型クラブはまだ地域のスポーツ拠点になっていない」（連携賛成 76.4%、連携反対 80.2%）であった。また、有意差こそ見出されたものの、「連携賛成」「連携反対」双方ともに高い数値となった印象内容（項目）は、「総合型クラブはスポーツクラブというより住民交流の場である」（連携賛成 48.2%、連携反対 61.1%）であった。すなわち、顧問教師の多くは、総合型クラブとの連携関係構築に賛成意向を有しながらも、本質的には

「総合型クラブが地域のスポーツ拠点として仮に機能し始めたとしても、そこでの活動はあくまでも住民交流がメインである」との意識が有されており、将来的に総合型クラブが地域のスポーツ拠点となりえたとしても、「部活動とは相容れない存在」としての深層心理が底流していると把捉理解すべきなのではなかろうか。そのことは、数多くの研究者や教育関係者が部活動における運営形態の変革および改革を主張してきたにも関わらず、抜本的な制度変更をはじめとした具体的な変革や改革に向けた動きをみるに至ってこなかった歴史的経緯、さらには、本研究における回収率の低さ―調査対象範域内の約６割の学校が部活動と総合型クラブの関係性に対して関心が抱かれていない、もしくは関心の程度が低い状態―と符合しよう。

つまり、総合型クラブ動向と顧問教師をめぐる今日的な「揺らぎ」の諸相は、部活動を取りまく諸問題の解決に向けた手がかりを見出すことが意図された「揺らぎ」（表層的揺らぎ）と、教員（学校）の総合型クラブをはじめとした地域スポーツ事情（実情）認識の脆弱さを取りまく「揺らぎ」（深層的揺らぎ）という、いわば、複層的な構造にあるといえよう。換言すれば、教員（学校）の地域スポーツ事情（実情）認識の脆弱さに起因する「揺らぎ」（深層的揺らぎ）は、部活動制度の発足以来、長年にわたって形成されてきた、いわば揺らぐことのない「揺らぎ」（地域との関係性をめぐる慢性的な葛藤状態）である可能性が高い。よって、今日の総合型クラブ育成動向の出現に伴い生じている表層的な「揺らぎ」は、発展的な「揺らぎ」のプロセス進行を遂げられない状況にあると把捉理解すべきなのであろう。

以上のような、顧問教師および学校を取りまく「揺らぎ」の構造こそが、部活動を取りまく規範性―「不変性」―に他ならないのではなかろうか。

(7)今後の展望（研究継続上の課題）

本研究においては、顧問教師の総合型クラブに対する意識に焦点化し、部活動運営形態をめぐる「揺らぎ」の諸相に関する把捉理解を試みた。その際、顧問教師を取りまく勤務校の形態、性別、年齢、担当教科といった各種属性項目（内容）にもとづく詳細な検討作業は実施せず、あくまでも、今日の顧問教師および部活動をめぐる「揺らぎ」の全般的諸相の把捉理解に主眼が置かれてきた。換言すれば、本研究の主眼は、「顧問教師全般がどのように揺らいでいるのか」といった、いわば、「揺らぎ」のダイナミズム（構造）の解明に置かれてきた。しかしながら、考察を深める中で、「どのようなタイプの顧問教師が、どのような揺らぎを伴いながら、顧問教師全般としての揺らぎのダイナミズムを形成するに至っているのか」といった、「揺らぎ」（発生）のメカニズムの解明作業が不可避であると感じている。よって今後は、顧問教師を取りまく各種属性項目（内容）を考慮に入れた分析・解析にもとづく、継続的かつ詳細な検討作業の実施が課題となる。

また、近年においては、少数ではあるものの、総合型クラブとの積極的な連携関係にもとづく運営形態が図られつつある部活動の出現をみている。筆者はすでに、当該部活動（総合型クラブ活動）に関与する教師への接触機会を有しており、以降においては、インタビュー調査を中心とした質的データの解釈をもとにした「揺らぎ」研究の発展を志向したい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

① 谷口勇一、甲斐義一、総合型地域スポーツクラブ動向と部活動顧問教師をめぐる「揺らぎ」の諸相、九州体育・スポーツ学研究、査読有、第 25 巻第 2 号、2011、印刷中.

② 谷口勇一、内倉康二、住民主導を意図した総合型地域スポーツクラブ育成事業における「揺らぎ」の意味と構造、教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集、査読有、第 4 巻第 2 号、2011、http://wwwsoc.nii.ac.jp/ecrk/newarticles.html

③ 谷口勇一、学校運動部活動顧問教員の総合型地域スポーツクラブに対する意識構造―「部活動」をめぐる教員の「揺らぎ」に着目して、日本体育学会第 61 回大会体育社会学専門分科会発表論文集、査読無、2010、pp.1-6.

④ 谷口勇一、松尾哲矢、スポーツプロモーションにおける「揺らぎ」の意味と構造（2）、日本体育学会第 60 回記念大会体育社会学専門分科会発表論文集、査読無、2009、pp.62-67.

〔学会発表〕（計３件）

① 谷口勇一、学校運動部活動顧問教員の総合型地域スポーツクラブに対する意識構造―「部活動」をめぐる教員の「揺らぎ」に着目して、日本体育学会第 61 回大会体育社会学専門分科会、2010 年 9 月 8 日（中京大学）.

② 甲斐義一、谷口勇一、後藤貴浩、高校球児の主体的プレーに関する社会学的考察、日本体育学会第 61 回大会体育社会学専門分科会、2010 年 9 月 8 日（中京大

学).

③ 谷口勇一、松尾哲矢、スポーツプロモーションにおける「揺らぎ」の意味と構造（2)、日本体育学会第 60 回記念大会体育社会学専門分科会、2009 年 8 月 26 日（広島大学).

〔図書〕(計１件)

① 松田恵示・松尾哲矢・安松幹展編著、世界思想社、福祉社会のアミューズメントとスポーツ、2010、全 260 頁（谷口勇一:「揺らぎ」の存する場所―コミュニティ形成が期待される総合型地域スポーツクラブ育成をめぐって、pp.187-201).

６．研究組織

(1)研究代表者

谷口　勇一（TANIGUCHI YUICHI）

大分大学・教育福祉科学部・准教授

研究者番号：50279296